趣 意 書

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素より格別の御芳情を賜りまして、誠にありがとうございます。

さて、第24回日本医療経営学会学術集会・総会を2025年11月7日（金）午後及び8日（土）札幌にて開催する運びとなり、私中林梓が大会長を拝命することになりました。会場は2025年4月に新築移転となりました、社会医療法人社団カレスサッポロの大城理事長のご厚意で、カレス記念病院 3階カレスホールを使用させていただくことになりました。最新のホールの見学とその機能に触れることを楽しみにしています。

2024年のトリプル改定は様々な分野に大きな影響のある改定でした。ベースアップ評価料の解りにくさ、急性期医療の定義を変えようという趣旨が明確であったこと、下り搬送や介護保険施設における協力医療機関の仕組み等、新たな連携のあり方も出てきました。回復期リハビリテーション病棟の体制強化加算の廃止や療養病床の中心静脈栄養への厳しい対応等もあり、これからの病院経営のあり方に不安や疑問を感じる改定でもあったと思います。さらに最大の問題点ともいえる物価と人件費の高騰が医療機関の経営を危機的なものにしていきます。

このような社会情勢の中で、今新たな医療経営の可能性を考えたいと思います。本大会では病床の新たな再編手法、地域包括ケアシステムの構築と連携の新たな可能性、医療DXへの取り組み方、病院事務の未来等、新経営戦略について、多くの提言を頂き、新たな医療経営のあり方とその可能性について考える機会にしたいと思います。

そこで今回は、「新しい病院経営のゆくえは」を学会のメインテーマとさせていただきました。きたるべく超高齢化社会・人口減社会に向けて地域の医療・介護ニーズと役割についてその可能性を考える価値ある機会の際にしたいと思います。

つきましては、本学会学術集会・総会の趣旨にご賛同いただき、何卒あたたかいご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第24回日本医療経営学会学術集会・総会
会 長 中 林 梓
(株式会社A S K梓診療報酬研究所 代表取締役)